Ｈ３０塩川小学校　校長室だより　30年7月11日(木)No.5

さわやか

積み残しの実態　～四則計算～

小数の加減乗除の計算問題を指導する学習サポーター

　各学年の基礎的基本的な問題を１０こ集めて作成した「１０の問題」を実施しました。
　以下に、各学年の正答率と、正答率の低かった問題を示しました。先生方は、この（自学級）結果をどう受け止めましたか？
　系統性が強く、積み上げ型の学習となる四則計算です。例えば、３年生で習う２位数×２位数の問題で、４７×３６の正答率は、７３％でした。誤答の数字はまちまちで、誤答の傾向が見て取れませんでした。しかし、この計算を解くのに、どんな既習事項を使っているのかをみてみると、誤答の原因が見えてきます（資料１）。

（資料1）

```
   ４７
  ×３６
  ------
   ２８２
  １４１
  ------
  １６９２
```

①６×７
②６×４
③２４＋４
④３×７
⑤３×４
⑥１２＋２
⑦２８２＋１４１０

　４７×３６の筆算を解くためには、左に示した、①から⑦の計算を行います。
　①から⑤までは、かけ算九九と繰り上がりの足し算をします。この中の誤答の要因として、子どもの苦手な七の段の九九と、繰り上がりの４を足す足し算が考えられます。
　位を揃えて書く技能や、繰り上がりの数字を分かるように書くこと、６を０と書かないなど、「ていねいさ」も必要になります。ていねいでない子は、間違いも多くなります。

誤答率の高い計算問題ベスト5

	問題（学ぶ学年）	正答率
1位	45371を概数で表す　（4年）	53．5%
2位	2．3×5．6　（5年）	55．6%
3位	0．2を分数になおす　（5年）	57．8%
4位	633÷24（余りも出す）（4年）	66．7%
	0．17×1．2　（5年）	
5位	4．54×25　（4年）	67．7%

放課後学習会の有効活用を！

　「小数の加減乗除の問題は、個々に、加減乗除を別々に指導するより、一斉に、加減乗除を一緒に指導するほうが効果的かもしれません。」と、学習サポーターの佐藤富子先生はおっしゃいました。なるほどと思い、一緒に指導してみるとその通りでした。
　指導には、少人数担当の金子先生にも入っていただいています。「１０の問題」で把握した積み残しを、確実に解消するためには「放課後学習会」がとても有効です。夏休みも行いますので、ぜひ活用させてください。

「マル付け！」されど「マル付け！！」

　低学年のプリント等の「マルつけ」を、退職された２名の先生にお願いしました。お二人の感想は、「これだけのマル付けは、たいへんだわ。初めは、マル付けは先生の仕事と思ってたけど、これが先生のためになるなら（私もうれしい）。」というものでした。
　低学年の先生に聞くと、「子どもを見てやれる時間、手をかけてやる時間が増えて、とてもありがたい（子どもと向き合う時間が増えた）。」とのことでした。

1クラス分の足し算・引き算の計算問題のマル付けに、3～40分かかっていました

ベテランならではの「つぶやき」

○　１００点でない子には点数は付けないよ。やり直しをさせて、青で１００点をつけてやるといいんだよねぇ。
○　漢字練習は、ポイントを示してやるといいんだよ。（例えば、「耳」と「聞」の、『耳』のある部分がポイントになります。）
○　まちがっているところは、個別に、または全体に直接指導しないと、まちがえたままになるよ。子どもは、ノートの訂正は見てないから（ノートに朱でする指導は、あまり効果がない。同じく、よいことは、みんなの前でほめてやると効果が大きくなる。）